

①学習成果

報告者は、2018年1月18日および19日に台湾の国立台湾大学で開催された標記ワークショップへ参加した。当日は国立台湾大学・京都大学・関西学院大学・早稲田大学の教員・大学院生・学部生が参加し、様々なテーマについての発表および討議を活発に行った。

1月18日のワークショップは各大学の教員を中心に参加し、京都大学の草野真樹准教授による発表「Effects of Recognition versus Disclosure of Finance Leases on Audit Fees and Costs: Evidence from Japan」について、参加者間で質問、議論が交わされた。とりわけ、日本におけるファイナンス・リースとオペレーティング・リースの重要性や、分析において内生性を排除するための実証研究の手法が大きな論点となった。報告者の研究領域は当該テーマと少し異なるものの、実証研究の手法については共通する部分もあり、当議論への参加は今後の研究にとって大変有益なものであった。

1月19日のワークショップは教員のみならず各大学の大学院生・学部生も参加し、学生6グループによる発表とそれに対する質疑応答が交わされた。6グループの発表内容はケーススタディやサーベイ調査などの定性的研究が3件、アーカイバルデータを用いた定量的研究が3件で、扱っているテーマ・企業も様々な、バラエティ豊かな内容であった。報告者は主に、定量的研究を行った国立台湾大学のグループに対してコメントを行った。また、日頃研究室にて指導している京都大学の学生に対し、英語でのプレゼンテーションの技術に関して指導を行った。当日は、学生同士の間で活発に質疑応答がなされ、学生にとって英語でのコミュニケーションスキルを向上させる大変貴重な機会となった。

②海外での経験

報告者の所属する研究室では、10年ほど前から毎年国立台湾大学とのワークショップを開催しており、報告者自身も今回で6回目（日本での開催3回、台湾での開催3回）の参加となった。しかしながら、多くの学生の顔ぶれは毎年入れ替わり、各グループの研究内容も毎年様々であることから、毎回新たな発見・学びを得ることが出来る。

特に学部生にとって、海外の大学において英語でプレゼンテーションを行うというのは大変貴重な機会である。中には海外に行くこと自体初めてという学生も存在する。京都大学の学生は往々にして、20年前後勉強だけに人生を賭けてきた世間知らずの若者である。学力が高くても、英語力、コミュニケーション能力では海外の学生に大きく劣っていることが少なくない。そのような学生に対し、英語でのプレゼンテーションの技術を指導し、海外の学生と積極的にコミュニケーションを取る機会を与えることは、彼ら自身の人生においても大きな経験となると同時に、将来的に教員職を志望する報告者にとっても、貴重な指導の経験となっている。

③プログラム内容

2018年1月18日 12:30-14:00 Faculty Workshop

2018年1月19日 10:30-17:20 Student Workshop

④進路への影響について

報告者は当初から博士課程への進学を予定しており、特に変更はない。